

第2節 学校経営全体構想

1 本年度のスローガン

思い合い・・思い合いの心が育まれる教育活動を工夫し、実践する。

学び合い・・伝え合いわかり合う中で互いに学び合える教育活動を工夫し、実践する。

高め合い・・互いを認め合い励まし合いながら目標を実現できる教育活動を工夫し、実践する

2 本年度の重点事項

- (1) 子どもたちが、学校へ行くことを喜びとし、不登校の子どもがいない学校にする。
- (2) 朝と帰りのあいさつ、日常の会話がきちんとできる子どもを育てる。
- (3) 新校舎での生活の更なる充実と、子どもの心身の安心、安全を確保する。

3 教育目標の具体

(1) よく学び（確かな学力の定着）

そのために・・・

① 学力の3つの要素（習得・活用・探究）を明確にした主体的な学びの確立

- ・児童の学習内容の定着状況を的確に把握、分析することによる指導方法の工夫改善
- ・体験的な学習や問題解決的な学習、児童の自主的、自発的な学習が促されるような工夫
- ・少人数授業や複数教員による指導、一部教科担任制等による、きめ細かな指導の工夫
- ・チャレンジタイム等による個の指導の充実

② 教科等の教育活動全体の中で、言語環境を整えることによる言語活動の充実

- ・言語活動の充実、特に「聞く喜び」を意識した教育活動の展開
- ・読書活動、掲示、教師の言葉遣いなど学校生活全体における言語環境の整備の育成

③ 教科・道徳と特別活動の関連を重視した教育課程の実践

- ・教科と道徳、道徳と特別活動の関連を図り、実践力の育成・実践ができるような教育課程の編成・実施

④ 人間としての生き方を学ぶ「栗っ子学習」の充実

- ・児童が自ら設定した課題解決に向けての探究過程を重視した学習としての充実
- ・地域に学び、地域に働きかけ、地域に貢献する学習としての充実

⑤ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた、計画的・組織的指導や支援

- ・学習の理解や発達の状況に応じた適切な対応を取るための指導体制の確立
- ・校内委員会の充実した運営と、教職員間の連携を図った組織的・系統的な指導体制の確立

⑥ 各教科等での地道な実践の積み上げや家庭との連携による、自ら学ぶ習慣の形成

- ・自ら学ぶ習慣の形成の基盤となる学習規律の系統的な定着
- ・宿題の出し方等、学校での学習と自主学習との円滑な接続による学習習慣の確立

(2) よく遊び（健やかな心と体の育成）

そのために・・・

① 一人ひとりの個性や興味・関心、特性等を把握し、育てる力を明確にした教育活動の展開

- ・児童等の実態を正確に把握し、個々の成長目標を考えた指導の充実
- ・様々な教育活動の場での児童の状況についての、教師間での的確な情報交換の実施

② 複数の仲間と一緒に元気に遊ぶ環境を整え、規範意識やコミュニケーション能力を高める。

- ・校舎内での、安全で安心して遊べる環境作り・指導
- ・遊びの中での規範意識やコミュニケーション能力の育成

③ 体力づくりの振興を図る工夫をする。

- ・校内環境、スペース等をフル活用した活動を工夫することでの基礎体力や望ましい運動習慣の形成

・「栗っ子スポーツフェスティバル」を実施するなど、運動への興味関心の高揚

- ④ 集会活動や集団宿泊学習、自然体験学習など、積極的な体験活動の実践
 - ・児童の自主性を尊重した集会活動やとことん取り組める体験活動の推進
 - ・校外学習や集団宿泊学習等を活用した自然体験学習を通してのよりよい人間関係の醸成
- ④ 健康や食習慣、安全についての自らの課題をよりよく解決する実践的な態度の育成
 - ・心身の健康や望ましい生活習慣についての保健学習や教育相談体制の充実
 - ・「マイランチの日」の設定や栄養教諭等との連携による食への関心の高揚
 - ・食物アレルギーがある子どもへの適切な対応を取るための組織体制の確立
 - ・危険予知能力や危険回避能力を育てる実践的な防災、安全教育の充実

(3) よく働く（心の豊かさの実践）

そのために・・・

- ① 一人ひとりが自己存在感をもてるような支持的風土にあふれる学級経営の実践
 - ・人権教育を基盤とした「思い合い 学び合い 高め合い」ができる学級の創造
 - ・学級における自己存在感を育成するための自主的な係活動や当番活動ができる児童の指導
- ② 道徳の時間を要として、すべての教育活動を通じての道徳教育の推進
 - ・多種多様な読み物教材の効果的な活用しての教科「道徳」の確実な実践
 - ・道徳教材の多様な活用と栗っ子「ありがとうの日」の効果的な運用
- ③ 特別活動を通してよりよい学校生活づくりに参画することでの自主的・実践的な態度の育成
 - ・集団参画意識や自治的な能力を育成のための児童の発想を可能な限り取り入れた活動の構成
 - ・異年齢の児童からなる集団活動の充実による望ましい人間関係の醸成
 - ・よりよい学校生活づくりに寄与する組織として確立のための委員会活動の活動を常時の見直し
- ④ みんなのために、自分のために働く喜びが実感できる清掃活動の指導
 - ・教職員が率先垂範し、全校の児童と教職員や地域住民が一斉に取り組む清掃の実施
- ⑤ 福祉、環境、国際、地域などを目的とするボランティア活動の推進
 - ・福祉（施設訪問等）、環境（アルミ缶、牛乳パック回収等）、国際（ユニセフ等）、地域（地域貢献等）の視点でのボランティア活動の推進
 - ・児童の力で地域に貢献し、地域の大人の意識を変革することができる活動の推進
 - ・ペア学年などを活用した校内の環境整備等、日ごろのボランティア活動の推進

(4) 連携の時代であることを意識した教育活動

そのために・・・

- ① 栗林に生きる喜びをもつことができるための、地域等と連携した学習や活動の工夫
 - ・栗林公園の活用や地域諸行事への貢献による校区と連携した教育活動の推進
 - ・釜石市立栗林小学校との交流についての見直しと継続
- ② 保護者や地域住民等の連携を深めるための教育活動の状況等の積極的な情報提供
 - ・学校だより「栗の木」、学年団だよりのより一層の紙面の工夫
 - ・ホームページのブログの定期的な更新等、ホームページの利点を生かした情報の積極的な提供
 - ・各教科等の授業参観や学級懇談会の実施による教育活動の積極的な公開
- ③ 家庭教育における子育てに関する相談活動の充実
 - ・教員、スクールカウンセラー、相談員、地域人材等による教育相談活動の充実
 - ・家庭教育の啓発資料としての保健、給食だより等の発信
- ③ 今あるべき教育活動を推進するための保育所・幼稚園・中学校との連携
 - ・保育所や幼稚園の園児との交流活動の実施
 - ・保育所・幼稚園・中学校との互いの公開授業や協議への参加
- ④ 学校運営上必要な関係機関との密接な連携を図った学校経営の推進
 - ・教育委員会や市当局、児童相談所等との緊密な連携
 - ・「高松型コミュニティスクール」を核にしたPTAや地域との更なる連携の強化